

追悼 故河村太市先生を悼む



故河村太市先生（前松風会理事長）が平成二十七年十月五日にご逝去（享年九十歳）なされて、既に一年十ヶ月が過ぎた。この間「松門」（松風会会報）が休刊であったため、ここに時期遅れながら、先生のご冥福をお祈りすると共に、足跡を振り返ってみる。

先生は、山口女子大学教授在職中、平成二年四月一日から財団法人松風会の理事に就任された。平成二十一年四月、理事長に選任され、五年間理事長を務められた。先生は二十四年間、松風会の事

業、中でも松陰教育学研究の中心となり、豊かな学識に基づき、会をリードして来られた。

会を辞任されてからも、引き続き「松陰研修塾基礎コース」等では講義を担当された。県内、松陰研究の第一人者として活躍しておられた先生のご逝去は誠に残念でならない。先生の松陰教学の熱意を今後とも引き継いで参りたいと考えているところである。ここで先生の松風会での活躍の幾つかを紹介する。

研修塾基礎コースの指導

平成三年から始まった「松陰研修塾基礎コース」の講師の中心として数多くの講義を担当された。「吉田松陰の生涯」「吉田松陰の生家、杉家」「吉田松陰の死生観」「松下村塾の教育」「士規七則」「松下村塾記」「師佐久間象山」「先師山鹿素行」「父叔兄宛書簡」「孫子評注」「名字説・送序」「諸生に示す」「武教全書講録」等々、その内容は実に多岐にわたっていた。

「脚注吉田松陰撰集」の刊行

松風会創立二十周年記念の「脚注吉田松陰撰集」刊行では、遺文の選定・全脚注の校閲・総合校訂・全遺文の解説と刊行の要となつて活躍された。殊に解説文は、先生の玉稿が読む人

を感動させてくれる。

公益財団法人認可への努力

理事長に選任されたその理事会で、「公益財団法人」認可を目指すことが決定された。三年間、十四回の法人研究委員会を経て、平成二十三年十月四日に、電子申請をし、認可を受け、平成二十四年四月十三日、登記を完了した。

河村理事長を中心に役員一丸となつて、努力された賜である。

「吉田松陰日録」の刊行

思想家藤田省三が「松陰に主著はない。彼の生涯そのものが彼の唯一の主著そのものであった。」（日本思想体系「吉田松陰」と洞察されていることに共感しておられ、以前から日録を刊行することを強く望んでおられた。そのため、採録の中心となつて努力された。

主な著書（退官記念書籍『個人指導の歴史的考察』より）

- 『山口県教育史』（山口県教育会編）
- 『長州藩心学道話の性格に関する一考察』（九州大学教育学部紀要、第7章）
- 『長州藩最終期における教育政策の特色』（山口県地方史研究7号）
- 『子ども観の歴史覚書』（現代教育科学、1979）
- 『生涯学習プログラムⅠ～Ⅳ』（編著、山口県生涯教育センター）

河村太市先生の略歴（退官記念書籍『個人指導の歴史的考察』より）

大正 15 年	(1926)	山口県大島郡三浦村（現周防大島町）で出生
昭和 34 年	(1959)	33 歳 九州大学大学院教育研究科修士課程修了
昭和 35 年	(1960)	34 歳 山口県教育研究所研究主事
昭和 41 年	(1966)	40 歳 山口県教育委員会管理課特殊教育係長
昭和 44 年	(1969)	43 歳 山口県聾学校教頭
昭和 46 年	(1971)	45 歳 山口県総務部学事文書課課長補佐（私学担当）
昭和 48 年	(1973)	47 歳 山口女子短期大学非常勤講師、教育史担当
昭和 50 年	(1975)	49 歳 山口女子大学文学部助教授
昭和 54 年	(1979)	53 歳 山口女子大学文学部教授
平成 2 年	(1990)	64 歳 松風会理事
平成 4 年	(1992)	65 歳 山口女子大学退官

（文責…理事長 室 謙司）

